

67 文法①	科目	制限時間	合格点	点
	国語	30分	80点	

文節は、文を読むときに、不自然にならないようにできるだけ小さく区切った単位です。  
 単語は、意味や働きをもった、文法上の最も小さな単位です。

文節に分けましょう。(4点×5問=20点)

例 世界の国々を旅してきた。 世界の/国々を/旅して/きた。	① 風船がふわふわと空を飛ぶ。
② 友人と公園でテニスをした。	③ 夜空に星がかがやいている。
④ 弟は切手をたくさん集めている。	⑤ 残さずに、全部食べ切るべきだ。

単語に分けましょう。(4点×5問=20点)

例 夏に海へ出かける予定だ。 夏/に/海/へ/出かける/予定/だ。	① 兄はサッカーがとても得意だ。
② 妹と部屋の片づけをした。	③ 本屋で新しい本を買った。
④ この問題をしっかり解決しよう。	⑤ 花をそとつんで、家に持ち帰った。

主語 … 「何(誰)が」に当たる部分。

述語 … 「何だ」「どんなだ」「どうする」「ある(いる・ない)」に当たる部分。

修飾語 … 「何を・いつ・どこで・どのように」など、他の部分をより詳しく説明する部分。

接続語 … 前後の文や文節をつないで、いろいろな関係を示す部分。

独立語 … 他の部分とは直接関わりなく単独で働く部分。

下線部の文節の成分を書きましょう。(4点×5問=20点)

例 木の葉が <u>ゆらゆらと</u> 揺れている。	修飾語	① 私は、 <u>中学一年生</u> です。
② <u>はい</u> 、私がそれをやります。		③ 昨日、 <u>弟</u> が子犬を見つけた。
④ <u>熱</u> がある。 <u>けれども</u> 、学校に行く。		⑤ 彼らは <u>公園</u> で野球をしている。

下線部の連文節の成分を書きましょう。(4点×5問=20点)

例 <u>大きな熊</u> が、山を下りてきた。	主部	① <u>小さな子供</u> が <u>にこにこ</u> 笑う。
② <u>会場</u> は、 <u>多くの観客</u> でいっぱいだ。		③ <u>私の宝物</u> 、それは家族と友達です。
④ <u>時間</u> があれば、 <u>図書館</u> に行こう。		⑤ <u>昔からの友人</u> が、家に遊びに来た。

主・述の関係 … 「何が～どうする」という関係。

例) 自動車が目の前を走った。

修飾・被修飾の関係 … 「どんな○○」という関係。

例) 庭にきれいな花が咲いた。

接続の関係 … 「～ならば」「～する時」「～なので」という関係。

例) 病気なので、学校を休む。

並立の関係 … 働きが同じものが並んでいる関係。

例) 畑の野菜が強く健康に育つ。

補助の関係 … 前の語の意味を補う関係。

例) 妹の様子を見に行ってみる。

棒線と波線の文節どうし関係を書きましょう。(4点×5問=20点)

例 今日 <u>父親も母親も</u> 休みだ。	並立	① <u>明日雨</u> ならば、図書館で勉強する。
② <u>暖かい光</u> が、窓から差し込む。		③ <u>すでに</u> 旅行の準備は済んだ。
④ <u>部屋の明かり</u> が消えている。		⑤ <u>強くて冷たい</u> 風が吹きつける。

68 文法②	科目	制限時間	合格点	点
	国語	30分	80点	

「これ」「そこ」「あちら」「どの」のような「こ・そ・あ・ど」で始まる語を指示語といいます。

近称 … 話し手の近くのもの 例) 「これ」「ここ」「こちら」「こう」「この」  
 中称 … 話し手から離れていて聞き手の近くにあるもの 例) 「それ」「そこ」「そちら」「そう」「その」  
 遠称 … 話し手からも聞き手からも離れているもの 例) 「あれ」「あそこ」「あちら」「ああ」「あの」  
 不定称 … 指し示すものが定まっていないもの 例) 「どれ」「どこ」「どちら」「どう」「どの」

棒線部の指示語の種類を書きましょう。(4点×5問=20点)

例	<u>そ</u> っちへ行くとあぶないよ。	中称	①	<u>あ</u> んなふうに飛べたらなあ。
②	<u>ど</u> うにすれば、分かるだろうか。		③	<u>こ</u> っちでいっしょに食べようよ。
④	<u>そ</u> こにある塩を取って欲しい。		⑤	東京へは <u>ど</u> のバスに乗りますか。

敬語は、尊敬語・謙譲語・丁寧語に分類することができます。

尊敬語 … 自分以外の人を高めて敬意を表す。

例) ご覧になる、おっしゃる、召し上がる

謙譲語 … 自分側の動作や物事をへりくだって表す。

例) 拝見する、申し上げる、いただく

丁寧語 … 丁寧に言うことで、相手に対する敬意を表す。 例) おそうじ、～です、～ます

棒線部を指示された敬語表現に直して、全文を書きましょう。(4点×10問=40点)

①	先生は私の絵を <u>見た</u> 。(尊敬語)	②	私は先生の絵を <u>見た</u> 。(謙譲語)
③	先生は弁当を <u>食べた</u> 。(尊敬語)	④	私は弁当を <u>食べた</u> 。(謙譲語)
⑤	先生は「お願いします」と <u>言った</u> 。(尊敬語)	⑥	私は「お願いします」と <u>言った</u> 。(謙譲語)
⑦	先生がこちらへ <u>来た</u> 。(尊敬語)	⑧	私がそちらへ <u>行きます</u> 。(謙譲語)
⑨	先生は私に手紙を <u>くれた</u> 。(尊敬語)	⑩	私は先生から手紙を <u>もらった</u> 。(謙譲語)

読点を添えたり語順を変えたりすると、曖昧な文を分かりやすい文に直すことができます。

例) 母はいつも頑張る私をほめてくれる。→「いつも頑張る」のか「いつもほめてくれる」のか曖昧。

「いつも頑張る」の場合 → いつも頑張る私を、母はほめてくれる。

「いつもほめてくれる」の場合 → 頑張る私を、母はいつもほめてくれる。

あとの意味になるように、書き換えましょう。(10点×4問=40点)

①	父親は急いで出発する息子を追いかけた。 父親が急いでいる場合 息子が急いでいる場合	②	昨日私の兄が買った時計が壊れた。 昨日買った場合 昨日壊れた場合
③	私は笑いながら走る妹に手を振った。 笑いながら走る場合 笑いながら手を振った場合	④	兄は時々やってくる祖父と話をする。 時々やってくる場合 時々話をする場合

# 73 古文・漢文①

科目  
国語

制限時間  
30分

合格点  
80点

点

古文には、現代文と発音が異なるものがあります。

「ゐ・ゑ・を」	→「い・え・お」	例) まゐる→ま <u>い</u> る、すゑ→す <u>え</u> 、 <u>を</u> とこ→ <u>お</u> とこ
「ぢ・づ」	→「じ・ず」	例) もみ <u>ぢ</u> →もみ <u>じ</u> 、み <u>づ</u> →み <u>ず</u>
「つ」	→「っ」	例) し <u>つ</u> かと→し <u>っ</u> かと
「は・ひ・ふ・へ・ほ」	→「わ・い・う・え・お」	例) 思 <u>ひ</u> →思 <u>い</u> 、ま <u>へ</u> →ま <u>え</u> 、か <u>ほ</u> →か <u>お</u>
「む」	→「ん」	例) や <u>む</u> ごとなき→や <u>ん</u> ごとなき
「くわ・ぐわ」	→「か・が」	例) く <u>わ</u> し→ <u>か</u> し、 <u>ぐ</u> わんじつ→ <u>が</u> んじつ
「ア段+う」	→「オ段+う」	例) ま <u>う</u> す→ <u>も</u> うす
「イ段+う」	→「イ段+ゅう」	例) あや <u>し</u> う→あや <u>し</u> ゅう
「エ段+う」	→「イ段+ょう」	例) <u>け</u> ふ→ <u>き</u> ょう

現代仮名遣いに直しましょう。(3点×15問=45点)

① むど	② かるがゆゑに	③ 取らむとす
④ ぢしん	⑤ よろづ	⑥ くひきつて
⑦ くはへて	⑧ さそひ	⑨ 言ふ
⑩ ささむとす	⑪ くわかく	⑫ きぐわん
⑬ まうけて	⑭ えいきう	⑮ てふてふ

古文には、現代文にはない省略があります。

言葉の省略 例) 今は昔→今は昔のことであるが  
「が」や「お」の省略 例) ある犬、肉をくはへて→ある犬が、肉をくわえて、竹取りつる→竹を取りつる

文章を読んで、あとの問いに答えましょう。(5点×11問=55点)

<p>ある犬、肉をくはへて川を渡る。 真ん中ほどにて①その影水に写りて大きに見えければ、 「我が②くはふるところの肉より大きなる。」と心得て、 ③これを捨てて④かれを取らむとす。 ⑤かるがゆゑに、二つながらこれを失ふ。 ⑥そのごとく、<sup>じゅうよくしん</sup>重欲心の<sup>ともがら</sup>輩は、他の<sup>たから</sup>財をうらやみ、 ⑦事にふれて<sup>むさぶ</sup>貪るほどに、たちまち⑧天罰を⑨かうむる。 我が持つところの財をも⑩失ふことありけり。</p>	<p>ある犬が、肉をくわえて川を渡る。 真ん中辺りでその影が水に映って大きく見えたので、 「私がかわえている肉より大きい。」と考えて、 自分の肉を捨てて相手の肉を取ろうとする。 そのために、二つともこれを失ってしまう。 このように、欲の深い者たちは、他人の財産をうらやみ、 何かにつけて欲しがるので、たちまち天罰を受ける。 自分が持つ財産をも失うことがあるものだ。</p>
---	--

- |                       |  |
|-----------------------|--|
| ① 線①は何の影ですか？          |  |
| ② 線②を現代仮名遣いに直しましょう。   |  |
| ③ 線③は、何を指していますか。      |  |
| ④ 線④は、何を指していますか。      |  |
| ⑤ 線⑤の現代語訳を書きましょう。     |  |
| ⑥ 線⑥の現代語訳を書きましょう。     |  |
| ⑦ 線⑦の現代語訳を書きましょう。     |  |
| ⑧ 線⑧は、どんな天罰ですか。       |  |
| ⑨ 線⑨を現代仮名遣いにしましょう。    |  |
| ⑩ 線⑩を現代仮名遣いにしましょう。    |  |
| ⑪ この話が教えていることを書きましょう。 |  |

74 古文・漢文②	科目 国語	制限時間 30分	合格点 80点	点
-----------	----------	-------------	------------	---

係り結びの法則では、文中に「ぞ・なむ・や・か・こそ」がある場合、文末が終止形以外になります。  
 文中に「ぞ・なむ・や・か」がある場合、文末はう段(連体形)になります。  
 例) さめきのみやつことなむいひける。(終止形は「けり」だが、連体形の「ける」で終わる。)  
 文中に「こそ」がある場合、文末はエ段(已然形)になります。  
 例) 月見れば千々にものこそ悲しけれ。(終止形は「けり」だが、已然形の「けれ」で終わる。)

下線部の語を正しい形に変えましょう。(5点×6問=30点)

① 雪ぞ降り <u>けり</u> 。	② 雪や降り <u>けり</u> 。	③ 雪こそ降り <u>けり</u> 。
④ 雨なむ降り <u>たり</u> 。	⑤ 雨か降り <u>たり</u> 。	⑥ 雨こそ降り <u>たり</u> 。

まくらのそうし 枕草子は、平安時代の1000年頃、せいしようなごん 清少納言によって書かれたずいひつ 隋筆で、約三百段に及びます。

文章を読んで、あとの問いに答えましょう。(5点×14問=70点)

<p>春はあけぼの。①やうやう白くなりゆく山際、すこし明かりて、②紫だちたる雲の細くたなびきたる。</p> <p>夏は夜。月のころはさらなり、闇も③なほ、蛍の多く④飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも⑤をかし。</p> <p>秋は夕暮れ。夕日の差して、山の端⑥いと近うなりたるに、鳥の寝所へ行くとして、三つよつ、二つ三つなど飛び急ぐさへ⑦あはれなり。まいて雁などの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。</p> <p>冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、また⑧さらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭持て渡るも、いと⑨つきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も、白き灰がちになりて⑩わろし。</p>	<p>春は明け方。だんだん白くなってゆく山際が、すこし明るくなって、紫がかつた雲が細くたなびいている。</p> <p>夏は夜。月のある時は尚更だ、闇もやはり、蛍が多く飛びかっている。また、ほんの一匹か二匹が、ほのかに光って行くのも趣がある。</p> <p>秋は夕暮れ。夕日が差して、山の端にとても近くなった頃に、鳥が寝所へ行くこうとして、三羽四羽、二羽三羽などと飛び急ぐのさえしみじみする。まして雁などが連なったのが、とても小さく見えるのは、とても趣がある。日が沈みきつての、風の音や、虫の音などは、また言うまでもない。</p> <p>冬は早朝。雪の降っているのは言うまでもなく、霜がとても白いのも、またそうでなくても、とても寒い時に、火などを急いでおこして、炭を持っていくのも、とてもふさわしい。昼になって、温かくだんだんゆるんでいくと、火鉢の火も、白い灰ばかりになってよくない。</p>
---	---

① 線①を現代仮名遣いに直しましょう。
② 線②の現代語訳を書きましょう。
③ 線③を現代仮名遣いに直しましょう。
④ 線④を現代仮名遣いに直しましょう。
⑤ 線⑤の現代語訳を書きましょう。
⑥ 線⑥の現代語訳を書きましょう。
⑦ 線⑦を現代仮名遣いに直しましょう。
⑧ 線⑧の現代語訳を書きましょう。
⑨ 線⑨の現代語訳を書きましょう。
⑩ 線⑩の現代語訳を書きましょう。
⑪ 春の趣がある時間帯はいつですか。
⑫ 夏の趣がある時間帯はいつですか。
⑬ 秋の趣がある時間帯はいつですか。
⑭ 冬の趣がある時間帯はいつですか。

67 文法①	科目 国語	制限時間 30分	合格点 80点	点
--------	----------	-------------	------------	---

文節は、文を読むときに、不自然にならないようにできるだけ小さく区切った単位です。  
単語は、意味や働きをもった、文法上の最も小さな単位です。

文節に分けましょう。(4点×5問=20点)

例 世界の国々を旅してきた。 世界の/国々を/旅して/きた。	① 風船がふわふわと空を飛ぶ。 風船が/ふわふわと/空を/飛ぶ。
② 友人と公園でテニスをした。 友人と/公園で/テニスを/した。	③ 夜空に星がかがやいている。 夜空に/星が/かがやいて/いる。
④ 弟は切手をたくさん集めている。 弟は/切手を/たくさん/集めて/いる。	⑤ 残さずに、全部食べ切るべきだ。 残さずに、/全部/食べ切るべきだ。

単語に分けましょう。(4点×5問=20点)

例 夏に海へ出かける予定だ。 夏/に/海/へ/出かける/予定/だ。	① 兄はサッカーがとても得意だ。 兄/は/サッカー/が/とても/得意だ。
② 妹と部屋の片づけをした。 妹/と/部屋/の/片づけ/を/し/た。	③ 本屋で新しい本を買った。 本屋/で/新しい/本/を/買った。
④ この問題をしっかり解決しよう。 この/問題/を/しっかり/解決し/よう。	⑤ 花をそとつんで、家に持ち帰った。 花/を/そと/つん/で、/家/に/持ち帰っ/た。

主語 … 「何(誰)が」に当たる部分。

述語 … 「何だ」「どんなだ」「どうする」「ある(いる・ない)」に当たる部分。

修飾語 … 「何を・いつ・どこで・どのように」など、他の部分をより詳しく説明する部分。

接続語 … 前後の文や文節をつないで、いろいろな関係を示す部分。

独立語 … 他の部分とは直接関わりなく単独で働く部分。

下線部の文節の成分を書きましょう。(4点×5問=20点)

例 木の葉が <u>ゆらゆらと</u> 揺れている。	修飾語	① 私は、 <u>中学一年生</u> です。	述語
② <u>はい</u> 、私がそれをやります。	独立語	③ 昨日、 <u>弟</u> が子犬を見つけた。	主語
④ <u>熱</u> がある。 <u>けれども</u> 、学校に行く。	接続語	⑤ 彼らは <u>公園</u> で野球をしている。	修飾語

下線部の連文節の成分を書きましょう。(4点×5問=20点)

例 <u>大きな熊</u> が、山を下りてきた。	主部	① <u>小さな子供</u> が <u>にこにこ</u> 笑う。	述部
② 会場は、 <u>多くの観客</u> でいっぱいだ。	修飾部	③ <u>私の宝物</u> 、それは家族と友達です。	独立部
④ <u>時間があれば</u> 、図書館に行こう。	接続部	⑤ <u>昔からの友人</u> が、家に遊びに来た。	主部

主・述の関係 … 「何が～どうする」という関係。

例) 自動車が目の前を走った。

修飾・被修飾の関係 … 「どんな○○」という関係。

例) 庭にきれいな花が咲いた。

接続の関係 … 「～ならば」「～する時」「～なので」という関係。

例) 病気なので、学校を休む。

並立の関係 … 働きが同じものが並んでいる関係。

例) 畑の野菜が強く健康に育つ。

補助の関係 … 前の語の意味を補う関係。

例) 妹の様子を見に行ってみる。

棒線と波線の文節どうし関係を書きましょう。(4点×5問=20点)

例 今日 <u>は</u> 父親も母親も休みだ。	並立	① 明日 <u>雨</u> ならば、図書館で勉強する。	接続
② 暖かい <u>光</u> が、窓から差し込む。	主・述	③ <u>すでに</u> 旅行の準備は済んだ。	修飾・被修飾
④ 部屋の明かりが <u>消え</u> ている。	補助	⑤ <u>強く</u> 冷たい風が吹きつける。	並立

68 文法②	科目	制限時間	合格点	点
	国語	30分	80点	

「これ」「そこ」「あちら」「どの」のような「こ・そ・あ・ど」で始まる語を指示語といいます。

近称	… 話し手の近くのもの	例)	「これ」「ここ」「こちら」「こう」「この」
中称	… 話し手から離れていて聞き手の近くにあるもの	例)	「それ」「そこ」「そちら」「そう」「その」
遠称	… 話し手からも聞き手からも離れているもの	例)	「あれ」「あそこ」「あちら」「ああ」「あの」
不定称	… 指し示すものが定まっていないもの	例)	「どれ」「どこ」「どちら」「どう」「どの」

棒線部の指示語の種類を書きましょう。(4点×5問=20点)

例	<u>そ</u> っちへ行くとあぶないよ。	中称	①	<u>あ</u> んなふうに飛べたらなあ。	遠称
②	<u>ど</u> うにすれば、分かるだろうか。	不定称	③	<u>こ</u> っちでいっしょに食べようよ。	近称
④	<u>そ</u> こにある塩を取って欲しい。	中称	⑤	東京へは <u>ど</u> のバスに乗りますか。	不定称

敬語は、尊敬語・謙譲語・丁寧語に分類することが出来ます。

尊敬語	… 自分以外の人を高めて敬意を表す。	例)	ご覧になる、おっしゃる、召し上がる
謙譲語	… 自分側の動作や物事をへりくだって表す。	例)	拝見する、申し上げる、いただく
丁寧語	… 丁寧に言うことで、相手に対する敬意を表す。	例)	おそうじ、～です、～ます

棒線部を指示された敬語表現に直して、全文を書きましょう。(4点×10問=40点)

①	先生は私の <u>絵を見た</u> 。(尊敬語) 先生は私の <u>絵をご覧になった</u> 。	②	私は先生の <u>絵を見た</u> 。(謙譲語) 私は先生の <u>絵を拝見した</u> 。
③	先生は弁当を <u>食べた</u> 。(尊敬語) 先生は弁当を <u>召し上がった(お食べになった)</u> 。	④	私は弁当を <u>食べた</u> 。(謙譲語) 私は弁当を <u>いただいた</u> 。
⑤	先生は「 <u>お願いします</u> 」と <u>言った</u> 。(尊敬語) 先生は「 <u>お願いします</u> 」と <u>おっしゃった</u> 。	⑥	私は「 <u>お願いします</u> 」と <u>言った</u> 。(謙譲語) 私は「 <u>お願いします</u> 」と <u>申し上げた(申した)</u> 。
⑦	先生が <u>こちらへ来た</u> 。(尊敬語) 先生が <u>こちらへいらっしゃった</u> 。	⑧	私が <u>そちらへ行きます</u> 。(謙譲語) 私が <u>そちらへ伺います(参ります)</u> 。
⑨	先生は私に手紙を <u>くれた</u> 。(尊敬語) 先生は私に手紙を <u>くださった</u> 。	⑩	私は先生から手紙を <u>もらった</u> 。(謙譲語) 私は先生から手紙を <u>いただいた</u> 。

読点を添えたり語順を変えたりすると、曖昧な文を分かりやすい文に直すことが出来ます。

例)	母はいつも頑張る私をほめてくれる。→「いつも頑張る」のか「いつもほめてくれる」のか曖昧。
「いつも頑張る」の場合	→ いつも頑張る私を、母はほめてくれる。
「いつもほめてくれる」の場合	→ 頑張る私を、母はいつもほめてくれる。

あとの意味になるように、書き換えましょう。(10点×4問=40点)

①	父親は急いで出発する息子を追いかけた。 父親が急いでいる場合 例) 出発する息子を、父親は急いで追いかけた。 息子が急いでいる場合 例) 急いで出発する息子を、父親は追いかけた。	②	昨日私の兄が買った時計が壊れた。 昨日買った場合 例) 私の兄が昨日買った時計が壊れた。 昨日壊れた場合 例) 私の兄が買った時計が、昨日壊れた。
③	私は笑いながら走る妹に手を振った。 笑いながら走る場合 例) 笑いながら走る妹に、私は手を振った。 笑いながら手を振った場合 例) 走る妹に、私は笑いながら手を振った。	④	兄は時々やってくる祖父と話をする。 時々やってくる場合 例) 時々やってくる祖父と、兄は話をする。 時々話をする場合 例) やってくる祖父と、兄は時々話をする。

73 古文・漢文①	科目	制限時間	合格点	点
	国語	30分	80点	

古文には、現代文と発音が異なるものがあります。

「ゐ・ゑ・を」	→「い・え・お」	例) まゐる→ま <u>い</u> る、すゑ→す <u>え</u> 、 <u>を</u> とこ→ <u>お</u> とこ
「ぢ・づ」	→「じ・ず」	例) もみ <u>ぢ</u> →もみ <u>じ</u> 、み <u>づ</u> →み <u>ず</u>
「つ」	→「っ」	例) し <u>つ</u> かと→し <u>っ</u> かと
「は・ひ・ふ・へ・ほ」	→「わ・い・う・え・お」	例) 思 <u>ひ</u> →思 <u>い</u> 、ま <u>へ</u> →ま <u>え</u> 、か <u>ほ</u> →か <u>お</u>
「む」	→「ん」	例) や <u>む</u> ごとなき→や <u>ん</u> ごとなき
「くわ・ぐわ」	→「か・が」	例) く <u>わ</u> し→ <u>か</u> し、 <u>ぐ</u> わんじつ→ <u>が</u> んじつ
「ア段+う」	→「オ段+う」	例) ま <u>う</u> す→ <u>も</u> うす
「イ段+う」	→「イ段+ゆう」	例) あや <u>し</u> う→あや <u>し</u> ゆう
「エ段+う」	→「イ段+よう」	例) <u>け</u> ふ→ <u>き</u> よう

現代仮名遣いに直しましょう。(3点×15問=45点)

①	みど	いど	②	かるがゆゑに	かるがゆえに	③	取らむとす	取らんとす
④	ぢしん	じしん	⑤	よろづ	よろず	⑥	くひきつて	くいきつて
⑦	くはへて	くわえて	⑧	さそひ	さそい	⑨	言ふ	言う
⑩	ささむとす	ささんとす	⑪	くわかく	かかく	⑫	きぐわん	きがん
⑬	まうけて	もうけて	⑭	えいきう	えいきゆう	⑮	てふてふ	ちようちよう

古文には、現代文にはない省略があります。

言葉の省略 例) 今は昔→今は昔のことであるが

「が」や「お」の省略 例) ある犬、肉をくはへて→ある犬が、肉をくわえて、竹取りつる→竹を取りつる

文章を読んで、あとの問いに答えましょう。(5点×11問=55点)

ある犬、肉をくはへて川を渡る。 真ん中ほどにて①その影水に写りて大きに見えければ、 「我が②くはふるところの肉より大きなる。」と心得て、 ③これを捨てて④かれを取らむとす。 ⑤かるがゆゑに、二つながらこれを失ふ。 ⑥そのごとく、 <sup>じゅうよくしん</sup> 重欲心の <sup>ともがら</sup> 輩は、他の <sup>たから</sup> 財をうらやみ、 ⑦事にふれて <sup>むさぶ</sup> 貪るほどに、たちまち⑧天罰を⑨かうむる。 我が持つところの財をも⑩失ふことありけり。	ある犬が、肉をくわえて川を渡る。 真ん中辺りでその影が水に映って大きく見えたので、 「私がかわえている肉より大きい。」と考えて、 自分の肉を捨てて相手の肉を取ろうとする。 そのために、二つともこれを失ってしまう。 このように、欲の深い者たちは、他人の財産をうらやみ、 何かにつけて欲しがるので、たちまち天罰を受ける。 自分が持つ財産をも失うことがあるものだ。
① 線①は何の影ですか？	犬の影
② 線②を現代仮名遣いに直しましょう。	くわうる
③ 線③は、何を指していますか。	自分の肉
④ 線④は、何を指していますか。	相手の肉
⑤ 線⑤の現代語訳を書きましょう。	そのために
⑥ 線⑥の現代語訳を書きましょう。	このように
⑦ 線⑦の現代語訳を書きましょう。	何かにつけて
⑧ 線⑧は、どんな天罰ですか。	くわえていた肉を失ってしまった。
⑨ 線⑨を現代仮名遣いにしましょう。	こうむる
⑩ 線⑩を現代仮名遣いにしましょう。	失う
⑪ この話が教えていることを書きましょう。	他人の財産をうらやまないようにすべきだ。

74 古文・漢文②	科目 国語	制限時間 30分	合格点 80点	点
-----------	----------	-------------	------------	---

係り結びの法則では、文中に「ぞ・なむ・や・か・こそ」がある場合、文末が終止形以外になります。  
 文中に「ぞ・なむ・や・か」がある場合、文末はう段(連体形)になります。  
 例) さめきのみやつことなむいひける。(終止形は「けり」だが、連体形の「ける」で終わる。)  
 文中に「こそ」がある場合、文末はエ段(已然形)になります。  
 例) 月見れば千々にものこそ悲しけれ。(終止形は「けり」だが、已然形の「けれ」で終わる。)

下線部の語を正しい形に変えましょう。(5点×6問=30点)

① 雪ぞ降り <u>けり</u> 。	ける	② 雪や降り <u>けり</u> 。	ける	③ 雪こそ降り <u>けり</u> 。	けれ
④ 雨なむ降り <u>たり</u> 。	たる	⑤ 雨か降り <u>たり</u> 。	たる	⑥ 雨こそ降り <u>たり</u> 。	たれ

まくらのそうし 枕草子は、平安時代の1000年頃、せいしようなごん 清少納言によって書かれたずいひつ 隋筆で、約三百段に及びます。

文章を読んで、あとの問いに答えましょう。(5点×14問=70点)

<p>春はあけぼの。①やうやう白くなりゆく山際、すこし明かりて、②紫だちたる雲の細くたなびきたる。</p> <p>夏は夜。月のころはさらなり、闇も③なほ、蛍の多く④飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くも⑤をかし。</p> <p>秋は夕暮れ。夕日の差して、山の端⑥いと近うなりたるに、鳥の寝所へ行くとして、三つよつ、二つ三つなど飛び急ぐさへ⑦あはれなり。まいて雁などの連ねたるが、いと小さく見ゆるは、いとをかし。日入り果てて、風の音、虫の音など、はた言ふべきにあらず。</p> <p>冬はつとめて。雪の降りたるは言ふべきにもあらず、霜のいと白きも、また⑧さらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭持て渡るも、いと⑨つきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も、白き灰がちになりて⑩わろし。</p>	<p>春は明け方。だんだん白くなってゆく山際が、すこし明るくなって、紫がかった雲が細くたなびいている。</p> <p>夏は夜。月のある時は尚更だ、闇もやはり、蛍が多く飛びかっている。また、ほんの一匹か二匹が、ほのかに光って行くのも趣がある。</p> <p>秋は夕暮れ。夕日が差して、山の端にとても近くなった頃に、鳥が寝所へ行くこうとして、三羽四羽、二羽三羽などと飛び急ぐのさえしみじみする。まして雁などが連なったのが、とても小さく見えるのは、とても趣がある。日が沈みきっての、風の音や、虫の音などは、また言うまでもない。</p> <p>冬は早朝。雪の降っているのは言うまでもなく、霜がとても白いのも、またそうでなくても、とても寒い時に、火などを急いでおこして、炭を持っていくのも、とてもふさわしい。昼になって、温かくだんだんゆるんでいくと、火鉢の火も、白い灰ばかりになってよくない。</p>
---	---

① 線①を現代仮名遣いに直しましょう。	ようよう
② 線②の現代語訳を書きましょう。	紫がかった
③ 線③を現代仮名遣いに直しましょう。	なほ
④ 線④を現代仮名遣いに直しましょう。	とびちがいたる
⑤ 線⑤の現代語訳を書きましょう。	趣がある
⑥ 線⑥の現代語訳を書きましょう。	とても
⑦ 線⑦を現代仮名遣いに直しましょう。	あわれなり
⑧ 線⑧の現代語訳を書きましょう。	そうでなくても
⑨ 線⑨の現代語訳を書きましょう。	ふさわしい
⑩ 線⑩の現代語訳を書きましょう。	よくない
⑪ 春の趣がある時間帯はいつですか。	明け方
⑫ 夏の趣がある時間帯はいつですか。	夜
⑬ 秋の趣がある時間帯はいつですか。	夕暮れ
⑭ 冬の趣がある時間帯はいつですか。	早朝